

各位

令和2年6月18日

碧海信用金庫

2020年3月期（令和元年度）決算発表

碧海信用金庫（理事長：山内 正幸）は、2020年3月期（令和元年度）の決算について、以下のとおり業績の要約を公表いたします。

記

1. 主要業績数値

		2020年3月期 (当期)	2019年3月期 (前期)	増減
預貸金状況	預金積金残高	2,128,278百万円	2,073,660百万円	+54,617百万円 (+2.63%)
	貸出金残高	1,043,896百万円	1,030,923百万円	+12,972百万円 (+1.25%)
損益状況	業務純益	5,559百万円	5,349百万円	+209百万円
	経常利益	5,061百万円	5,252百万円	△190百万円
	当期純利益	3,455百万円	3,785百万円	△329百万円
健全性	純資産額	173,909百万円	182,567百万円	△8,657百万円 (△4.74%)
	自己資本比率(単体)	15.37%	15.84%	△0.47ポイント
	不良債権比率	3.01%	3.15%	△0.14ポイント

※ 単位未満切捨て表示。

※ 不良債権比率は金融再生法ベース。

2. 業績コメント

〔預貸金状況〕

○預金積金残高は、個人預金・法人預金ともに増加し、前期比 54,617 百万円増加の 2,128,278 百万円となりました。貸出金残高は、個人向け貸出の増加などにより、前期比 12,972 百万円増加の 1,043,896 百万円となりました。

〔損益状況〕

○有価証券利息配当金が増加しましたが、貸出金利息や株式等売却益の減少などにより、業務純益 5,559 百万円、経常利益 5,061 百万円、当期純利益 3,455 百万円となりました。

〔健全性〕

○金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率（単体）は、前期比 0.47 ポイント低下の 15.37%となりました。信用金庫に求められる国内基準（4%）を大きく上回っており、当金庫の安全性は極めて高い状態にあります。

○不良債権比率（金融再生法ベース）は、前期比 0.14 ポイント低下の 3.01%となりました。

以 上